

14時30分解禁

平成22年4月 全国百貨店売上高概況

平成22年5月18日

I. 概況

1. 売上高総額	4,846億円余
2. 前年同月比	-3.7% (店舗数調整後/26か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	92社 267店 (平成22年3月対比+7社-1店)
4. 総店舗面積	6,537,527㎡ (前年同月比:-3.1%)
5. 総従業員数	96,284人 (前年同月比:-2.5%)
6. 3か月移動平均値	9-11月 -10.2%、10-12月 -8.8%、11-1月 -7.4%、 12-2月 -5.4%、1-3月 -4.9%、2-4月 -4.2%

[参考] 平成21年4月の売上高増減率は-11.3% (店舗数調整後)

【4月売上の特徴】

26か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少率は2か月連続で3%台とほぼ横這いに推移した。また、トレンドを示す3か月移動平均値は5期連続で水準を戻してきている。

4月は、季節外れの降雪を含めた記録的な悪天候と気温低下の影響から、回復傾向にあった主力の衣料品分野で春物や初夏物のプロパー商材が苦戦を強いられたが、企業業績の改善を背景とした株価上昇による資産効果によって、宝飾品・輸入雑貨など高額品に関する富裕層消費が活性化していること、さらには地方物産展や菓子類が好調な食料品が15か月ぶりにプラスに転じたことなどが下支えし、売上減少幅は3%台で収まる結果となった。

具体的な動向としては、大都市基幹店の大型改装・増床工事で一時的に売場面積が縮小していること、天候不順で需要期の旅行・レジャー用品やUV関連商材が不調であったことなどマイナス要素がある一方、増床・リニューアルを済ませた店舗が売上を伸ばしたこと、コート等の防寒グッズや雨傘・レインシューズなどが一部伸びを示したこと、急伸基調にある外国人売上が前年比4割増で推移していること等のプラス要素が報告されている。

【要 因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「4月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
◇ 前線を伴った低気圧が日本付近を頻繁に通過したため曇りや雨の日が多く、全国的に日照時間は極めて少なかった。また、特に月の後半強い寒気が断続的に流れ込んだため、気温が平年を大幅に下回った。
- (2) 営業日数増減 29.9日 (前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 9日 (" ±0日)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比)
①増加した: 35店、②変化なし: 37店、③減少した: 64店、④不明: 45店
- (5) 4月歳時記 (春物商戦、花まつり、昭和の日) の売上 (同上)
①増加した: 10店、②変化なし: 35店、③減少した: 60店、④不明: 76店
- (6) 翌月上見通し (回答店舗数で見ると傾向値)
①増加する: 20店、②変化なし: 70店、③減少する: 37店、④不明: 54店

全国百貨店 売上高速報 2010年04月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	484,662,981	100.0	-3.7 (-5.8)
10都市	311,251,912	64.2	-3.9 (-6.0)
札幌	11,907,300	2.5	-0.7 (-7.5)
仙台	6,175,911	1.3	-8.8
東京	121,942,496	25.2	-4.9 (-7.6)
横浜	27,617,825	5.7	-2.4
名古屋	28,198,181	5.8	-2.0
京都	19,766,451	4.1	-1.5
大阪	58,299,710	12.0	-3.7 (-7.5)
神戸	13,734,756	2.8	-3.1
広島	11,203,446	2.3	-5.7
福岡	12,405,836	2.6	-6.3
10都市以外の地区	173,411,069	35.8	-3.3 (-5.4)
北海道	2,949,694	0.6	14.9 (-14.0)
東北	9,623,000	2.0	-5.1
関東	84,102,218	17.4	-3.0 (-4.4)
中部	13,580,010	2.8	-2.7 (-4.9)
近畿	16,121,519	3.3	-4.7
中国	11,792,185	2.4	-3.6
四国	8,986,940	1.9	-6.1
九州	26,255,503	5.4	-3.8 (-8.7)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	484,662,981	100.0	-3.7 (-5.8)
紳士服・洋品	33,257,134	6.9	-8.4 (-10.5)
婦人服・洋品	114,680,230	23.7	-7.2 (-9.3)
子供服・洋品	16,107,814	3.3	-5.2 (-6.0)
その他衣料品	12,659,418	2.6	-10.7 (-13.3)
衣 料 品	176,704,596	36.5	-7.5 (-9.6)
身のまわり品	61,268,078	12.6	-3.6 (-6.8)
化粧品	26,324,096	5.4	-1.9 (-3.3)
美術・宝飾・貴金属	22,723,777	4.7	-1.8 (-5.5)
その他雑貨	21,302,171	4.4	-7.0 (-9.9)
雑 貨	70,350,044	14.5	-3.5 (-6.1)
家 具	6,572,673	1.4	-8.9 (-11.2)
家 電	1,551,755	0.3	2.9 (1.9)
その他家庭用品	17,949,826	3.7	1.2 (-0.7)
家 庭 用 品	26,074,254	5.4	-1.4 (-3.4)
生 鮮 食 品	26,864,779	5.5	-0.9 (-1.9)
菓 子	30,684,170	6.3	3.0 (1.8)
惣 菜	26,945,528	5.6	-1.8 (-2.6)
その他食料品	34,714,459	7.2	1.6 (-1.0)
食 料 品	119,208,936	24.6	0.6 (-0.9)
食 堂 喫 茶	13,644,698	2.8	-6.4 (-8.0)
サ ー ビ ス	6,212,556	1.3	1.7 (0.4)
そ の 他	11,199,819	2.3	11.7 (11.0)
商 品 券	19,634,879	4.1	11.2 (9.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -3.9% (店舗数調整後 / 26か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -3.3% (// / 34か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-3.9	-2.5	26か月連続マイナス
札幌	-0.7	0.0	2か月連続マイナス
仙台	-8.8	-0.1	24か月連続マイナス
東京	-4.9	-1.2	26か月連続マイナス
横浜	-2.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
名古屋	-2.0	-0.1	29か月連続マイナス
京都	-1.5	-0.1	20か月連続マイナス
大阪	-3.7	-0.4	26か月連続マイナス
神戸	-3.1	-0.1	4か月連続マイナス
広島	-5.7	-0.1	26か月連続マイナス
福岡	-6.3	-0.2	21か月連続マイナス
10都市以外の地区	-3.3	-1.2	34か月連続マイナス
北海道	14.9	0.1	11か月連続プラス*
東北	-5.1	-0.1	25か月連続マイナス*
関東	-3.0	-0.5	34か月連続マイナス
中部	-2.7	-0.1	25か月連続マイナス
近畿	-4.7	-0.2	25か月連続マイナス
中国	-3.6	-0.1	23か月連続マイナス*
四国	-6.1	-0.1	34か月連続マイナス
九州	-3.8	-0.2	32か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、食料品が15か月ぶりにプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨と、先月プラスだった家庭用品も家具のマイナスがひびき若干下回った。家電とその他家庭用品が2か月連続のプラス、菓子とその他食料品が7か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.7	—	26か月連続マイナス
紳士服・洋品	-8.4	-0.6	25か月連続マイナス
婦人服・洋品	-7.2	-1.8	34か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.2	-0.2	20か月連続マイナス
その他衣料品	-10.7	-0.3	26か月連続マイナス
衣料品	-7.5	-2.9	34か月連続マイナス
身のまわり品	-3.6	-0.5	32か月連続マイナス
化粧品	-1.9	-0.1	17か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-1.8	-0.1	38か月連続マイナス*
その他雑貨	-7.0	-0.3	29か月連続マイナス*
雑貨	-3.5	-0.5	26か月連続マイナス
家具	-8.9	-0.1	29か月連続マイナス
家電	2.9	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	1.2	0.0	2か月連続プラス
家庭用品	-1.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-0.9	-0.1	15か月連続マイナス*
菓子	3.0	0.2	7か月ぶりプラス*
惣菜	-1.8	-0.1	23か月連続マイナス*
その他食料品	1.6	0.1	7か月ぶりプラス*
食料品	0.6	0.1	15か月ぶりプラス
食堂喫茶	-6.4	-0.2	21か月連続マイナス
サービス	1.7	0.0	13か月ぶりプラス
その他	11.7	0.2	8か月ぶりプラス
商品券	11.2	0.4	6か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年4月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年5月18日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,219億円余
2. 前年同月比	-4.9% (店舗数調整後/26か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-4.7%(87.4%) : 非店頭-6.0%(12.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	934,266㎡ (前年同月比:-3.9%)
6. 総従業員数	21,138人 (前年同月比:+13.2%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 -11.9%、10-12月 -9.9%、11-1月 -8.2%、 12-2月 -6.5%、1-3月 -6.3%、2-4月 -5.4%

[参考] 平成21年4月の売上高増減率は-11.9%

【4月売上の特徴】

- (1) 4月中旬以降の悪天候にもかかわらず、都内では積極的な催事展開が奏功して、入店客数は前年実績を超える店が大半であった。
- (2) 低温多雨の影響で、ブラウス、カットソー、Tシャツ等の軽衣料に動きが見られなかった反面、コート、ジャケット、ブルゾン等の羽織りものが大きく伸びた。
- (3) 富裕層消費の活性化で、都内各店ともに高級時計の伸びが目されているが、その他プレタポルテ（特選既製服）などにも動きが出始めている。
- (4) 15か月ぶりプラスとなった菓子類好調の背景には、スイーツブームの影響で男性客が増えるなど客層の広がりが出てきたことや、ゴールデン・ウィーク帰省土産の需要が高まったことなどが考えられる。
- (5) 5月前半の状況は、好天に恵まれたGW期間中には多くの店で二桁増を記録するなど、最近にはない活況を見せた。その後やや減速傾向にあるが、中旬までの実績では依然前年をクリアしている店が多い。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した：6店、②変化なし：5店、③減少した：8店、④不明：3店
- (3) 4月歳時記（春物商戦、花まつり、昭和の日）の売上（同上）
 - ①増加した：2店、②変化なし：5店、③減少した：5店、④不明：10店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する：4店、②変化なし：9店、③減少する：6店、④不明：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年04月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	121,942,496	100.0	-4.9 (-7.6)
紳士服・洋品	9,215,151	7.6	-10.4 (-13.1)
婦人服・洋品	26,048,214	21.4	-11.9 (-14.8)
子供服・洋品	2,760,781	2.3	-7.5 (-8.3)
その他衣料品	2,311,055	1.9	-23.2 (-27.8)
衣 料 品	40,335,201	33.1	-12.0 (-14.9)
身のまわり品	17,328,361	14.2	-5.3 (-10.0)
化粧品	6,826,049	5.6	-1.1 (-1.8)
美術・宝飾・貴金属	6,355,733	5.2	-1.5 (-5.5)
その他雑貨	6,832,233	5.6	-7.3 (-8.2)
雑 貨	20,014,015	16.4	-3.4 (-5.2)
家 具	1,985,571	1.6	-7.8 (-12.8)
家 電	661,382	0.5	10.0 (10.0)
その他家庭用品	5,057,296	4.1	6.8 (3.9)
家 庭 用 品	7,704,249	6.3	2.9 (-0.5)
生 鮮 食 品	4,367,492	3.6	0.6 (-1.1)
菓 子	7,124,433	5.8	1.2 (-0.9)
惣 菜	5,934,009	4.9	-2.3 (-3.8)
その他食料品	8,806,550	7.2	0.2 (-2.6)
食 料 品	26,232,484	21.5	-0.1 (-2.2)
食 堂 喫 茶	3,016,604	2.5	-13.1 (-14.8)
サ ー ビ ス	2,856,194	2.3	23.0 (22.9)
そ の 他	4,455,388	3.7	17.4 (16.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	6,488,810 千円	122.3 (116.6)
従 業 員 数	21,138 人	13.2
店 舗 面 積	934,266 m ²	-3.9

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が2か月連続のプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨と、食料品が-0.1%の微減となった。家電が4か月ぶり、生鮮食品が10か月ぶり、菓子が15か月ぶり、その他食料品が7か月ぶりにプラスとなり、その他家庭用品が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.9	—	26か月連続マイナス
紳士服・洋品	-10.4	-0.8	25か月連続マイナス
婦人服・洋品	-11.9	-2.7	21か月連続マイナス
子供服・洋品	-7.5	-0.2	20か月連続マイナス
その他衣料品	-23.2	-0.5	24か月連続マイナス
衣料品	-12.0	-4.3	21か月連続マイナス
身のまわり品	-5.3	-0.7	25か月連続マイナス
化粧品	-1.1	-0.1	17か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-1.5	-0.1	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-7.3	-0.4	23か月連続マイナス*
雑貨	-3.4	-0.5	24か月連続マイナス
家具	-7.8	-0.1	25か月連続マイナス
家電	10.0	0.0	4か月ぶりプラス
その他家庭用品	6.8	0.3	2か月連続プラス
家庭用品	2.9	0.2	2か月連続プラス
生鮮食品	0.6	0.0	10か月ぶりプラス*
菓子	1.2	0.1	15か月ぶりプラス*
惣菜	-2.3	-0.1	25か月連続マイナス*
その他食料品	0.2	0.0	7か月ぶりプラス*
食料品	-0.1	0.0	19か月連続マイナス
食堂喫茶	-13.1	-0.4	18か月連続マイナス
サービス	23.0	0.4	3か月ぶりプラス
その他	17.4	0.5	4か月ぶりプラス
商品券	122.3	2.8	9か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>